

放射線リスクコミュニケーション 相談員支援センター だより

避難指示解除後の葛尾村の取り組み

葛尾村では、平成 28 年 6 月 12 日に、帰還困難区域を除く地域（村の 9 割強の世帯が対象）において、避難指示が解除されました。これを受けて、村では、帰村して生活する中での個人線量を測定するため、個人線量計（「D - シャトル」）を用いた個人線量測定を実施することにしました。

葛尾村での個人線量測定の広報

個人線量測定にあたっては、住民の方に、個人線量測定の利用方法や必要性についてご理解してもらうことが必要です。

そこで、相談員支援センターでは、葛尾村の広報誌に掲載する、「D - シャトル」の利用方法や意義についてわかりやすく説明する資料の作成を協力させていただきました。

葛尾村での個人線量測定の状況

葛尾村では、住民の方に「D - シャトル」をお配りしていますが、仕事の際に邪魔になる、女性の方は男性と違い服に胸ポケットがないことが多い、首にかけていると肩が凝ってくる等の理由から、「D - シャトル」を常に身につけるのは難しいようです。また、個人線量計をご自宅に置いたままにしている方が多いようです。

そこで、葛尾村における「D - シャトル」の測定にあたっては、個人線量測定の希望者

の方と相談して、身につける期間を 9 日程度に短くさせていただきました。

葛尾村に帰村した住民の状況

個人線量測定の希望者の方への訪問の際に、帰村された住民の方から、以下のようなお話をお伺いしました。

- 5年間の避難生活の後の引越が大変だったが、自宅が住める状態ならば帰った方が良い。
- 仮設住宅では運動不足になりがちだったが、帰ってからは部屋の掃除や草刈り等、やることが多くあり、運動量が多くなった。
- まだ村内の商店等は再開していないが、震災以前も、毎日買い物等で出かけていたわけではなく、それほど不便を感じていない。
- 以前は野菜を自宅で栽培していたため、購入する必要はあまりなかったが、今は買いにいかねばならなくなった。
- 戻ってきていない近所の方が多いが、あまり気にならない。

なお、今回の訪問では、今年の 3 月 30 日に新しくオープンした「Cafe 嵐が丘」にも寄らせていただき、時間をかけて煮込んだドライカレーをいただきました。

葛尾村では、帰村された住民の方は多くはないですが、新しいお店もオープンする等、復興に向けて少しずつ前進しています。



【Cafe 嵐が丘】

営業日：水・木・金・土

AM11:30 ~ PM5:00

葛尾村野川字中島 0240-25-8922

伊藤忠彦環境副大臣が広野町放射線相談室の放射線相談会を視察しました

9月4日、伊藤忠彦環境副大臣が広野町を訪問し、広野町放射線相談室が主催している放射線相談会等を視察されました。当日は、福島県立医大の熊谷敦史先生をお招きして、老人会「浜田会」「はまぎく会」に所属する約20名の住民の方を対象に放射線と健康についての意見交換が行われました。放射線相談室鈴木室長や参加者からは、老人会と子育て世代で交流会を開き、若いお母さんとコ

ミュニケーションをとりながら、一緒に放射線に関する不安を解消していきたいとの意見が出されました。

なお、副大臣からは、生活基盤の調整をしつつ、安心して住みよい広野町になるよう努力していくとの話がありました。



●伊藤忠彦環境副大臣と広野町民との意見交換の様子

相談員の支援のための業務紹介

相談員支援センターでは、相談員や自治体の職員の方々等の様々なご質問、ご相談に対応しており、上記で紹介した個人線量測定の情報用資料の作成の協力などもさせていただいております。そのほか、

- 住民の方々からのご質問への回答作成
- 個人線量測定（D-シャトル）の測定の意義、効果等に関する説明資料の作成
- 個々の放射線に関する資料提供

の協力など、幅広い支援を行っております。相談員支援センターの職員が、皆様のごところに、頻繁にご訪問させていただいておりますので、気軽にご相談ください。

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター だより No.8

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 福島県いわき市平字小太郎町 2-6 いわきフコク生命ビル 5階

フリーダイヤル：0120-478-100 FAX：0246-35-5158 E-mail：F-sodan@nsra.or.jp